

## オーストラリア

# ダイヤモンドナ市 (クィーンズランド州)

シドニー事務所所長補佐 高橋 裕幸 (宮城県栗原市派遣)

オーストラリア大陸北東部を占めるクィーンズランド州は、南回帰線上に位置し、年中明るい太陽の光に包まれることから、サンシャインステートと呼ばれています。州都ブリスベンをはじめ、東海岸沿いにはケアンズ、ゴールドコースト、サンシャインコーストという世界有数の観光都市がグレートバリアリーフに沿って点在しています。このクィーンズランド州の南西側州境に位置するダイヤモンドナ市は、アウトバック（オーストラリア内陸部に広がる砂漠地帯である未開の荒野）の一部で、低い植物が生い茂るステップ地帯です。通常の携帯電話は使用できず、隣の集落までは数百kmもあり、まさに秘境ともいえる遠隔地域です。ここでは、ダイヤモンドナ市における遠隔地ならではの市民の暮らしと行政運営について紹介します。



## ダイヤモンドナ市 (Diamantina Shire Council) の概要

州都ブリスベンから西へ約1,600km、北部準州と南オーストラリア州に隣接する地域で、ダイヤモンドナ国立公園、シンプソン砂漠を含む広大な面積を有しています。その面積は実に95,000km<sup>2</sup>、北海道を一回り大きくした程度の市です。人口は350人で、このうちのほとんどがベドゥーリとバーズビルの2つの集落に居住していますが、この集落間は200kmも離れています。

市の財政状況を見ると、自主財源は6%程度で、歳入のほとんどは連邦政府および州政府からの交付金や補助金に依存しているが実状です。

主産業は畜産で、人口をはるかに上回る約7万頭の牛がのびのびと放牧されています。掘抜き井戸が点在するこの地域は、19世紀後半から、クィーンズランド州北部と北部準州から南オーストラリア州の家畜市場へ向かう畜産業者の中継地とされてきました。また、シンプソン砂漠を資源とする観光業も重要な産業になりつつあります。

## 道路維持管理

オーストラリアにおける行政構造は、連邦、州、

地方自治体の3層構成になっていますが、地方道の建設、維持管理は地方自治体の最重要業務の一つです。少ない人口に対して広大な面積を



ダイヤモンドナ市内の道路維持管理作業

抱えるダイヤモンドナ市では、道路維持管理経費は歳出予算の56%を占めています。

管理対象となる道路総延長は1,700km。しかし予算上の関係から、現在舗装されているのはこのうち140kmだけです。ほとんどの路面は採石と土砂を敷き、水分を加えてローラーで平らにするだけという整備状況です。管理区域が広いので、作業現場へは数百kmも移動することになり、通勤だけでも時間とガソリンの大きなロスになります。このためダイヤモンドナ市では、作業の効率化を図り、作業スタッフ用の移動式宿舎を準備するとともに、道路管理スタッフに限っては10日勤務後に4日休みという勤務体制を採用しています。

市内の道路を走ると、所々に「Floodway」という

標識に遭遇します。クイーンズランド州内陸部では数年に1度の割合で大規模な洪水が発生しているため、洪水発生時に真っ先に水が押し寄せる区域を市民に知らせるための標識なのです。平坦な地形なため、水流は緩やかで人命的被害はほとんどありませんが、この洪水も市の道路維持経費を増大させる大きな要因の一つになっています。

## 畜産業

ダイヤモンド市では、雄大な大地を活用して肉牛の放牧が営まれています。牛や馬の群れが車道を遮っていることも珍しい光景ではありません。畜牛の数はおよそ7万頭、そのほとんどがショートホーンという品種で、グラスフェドという自然の牧草による飼育方法を採用しています。放牧場は驚くほど広大です。市内に多数ある放牧場（Cattle Station）の一つGlengyle Stationは、その面積5,500km<sup>2</sup>。これは三重県や愛媛県の面積に匹敵します。それゆえ牧場のスタッフは、家畜の管理に小型の自家用飛行機を使用しています。

カウボーイが行う牛追いの光景は実に迫力があるものです。牧草の食い尽しを防ぐため、定期的に牛を移動させるものですが、3千頭の牛が土ぼこりを巻き上げて一気に移動する様子はとても勇壮です。またカウボーイといえば馬に乗ってというイメージですが、今日のカウボーイはモーターバイクを使用するのが一般的のようです。

牧場主の住居はHomesteadと呼ばれ、カウボーイの住居施設を備えた大邸宅になっています。ダイヤモンド市内には11のHomesteadが市街地郊外に



モーターバイクを使用するカウボーイ

点在しており、約70名の牧場主とカウボーイたちは共同生活を送りながら、質の高いオーガニックビーフの生産に取り組んでいます。

## 観光産業

バーズビルは、年に1度Birdsville Raceという競馬大会が開催される街として有名です。その歴史は古く、第1回は1882年に開催されています。毎年9月初旬には、会場となるバーズビル競馬場にオーストラリア全土から8千人の観客が訪れ、ダイヤモンド市にとって、貴重な観光資源になっています。

そして近年、四輪駆動車、自転車、徒歩でシンプソン砂漠横断を試みる人々が増加しています。その数は年間12万人にも及びます。シンプソン砂漠の玄関口であるバーズ



シンプソン砂漠を横断するファミリー

ビルは、食料や燃料の補給地点として利用度が高くなっています。ダイヤモンド市では、これに応じてヨーロッパのバックパッカーを対象に宣伝を強化するなどの観光戦略に力を注いでいます。

## 市民の生活

地質的条件から農業は全く行われておらず、食糧は外部からの供給に依存しています。主な交通手段は車で、地理状況から4輪駆動車以外はほとんど見かけません。生活に必要な食料と日用品を扱う雑貨店、ガソリンスタンド、車修理工場、郵便局、ATM、学校、医療センター、発電施設、パブはベドゥーリとバーズビルにそれぞれあり、市役所、警察官駐在所、観光情報センター、コミュニティセンター等の公共施設はベドゥーリにあります。家電や衣料品を扱う店、美容室、銀行などはなく、400km北にあるマウントアイザ市まで車で5時間かけて行かなくてはなりません。

ベドゥーリとバーズビルには、それぞれ空港が設

置されていて、州政府の補助により週2回の定期便が確保されています。このため、州沿岸部の大都市へのアクセスもそれほど困難なものではなく、約70名いる市職員の中には州沿岸部をはじめ外部からの単身赴任者も少なくありません。

## 医療サービス

ベドゥーリとバーズビルのそれぞれには、小さな医療センターがあります。しかし看護婦は常勤しているものの常勤医師はいません。このためダイヤモンドナ市は、オーストラリア全州の遠隔地域で提供されているRFDS (Royal Flying Doctor Service) という医療サービスを受けており、2週間ごとと緊急時に医師が飛行機でやって来ることになっています。それぞれの医療センターでは月曜から土曜まで常勤の看護婦が市民の医療ニーズに対応しています。

## 掘抜き井戸

大鑽井盆地に含まれるこの地域は、豊富で良質な地下水に恵まれています。鑽井盆地内では掘抜き井戸は自然噴出するため、ポンプアップの必要がなく、コストの小さい便利な資源として各地に点在し



大鑽井盆地に点在する掘抜き井戸

ており、主に牧畜用水に利用されています。自噴する地下水は40℃前後の温水であることから、市街地でも地上15mに設置された配水タンクに

集水され、そこから各家庭のバスルームへとパイプで供給されています。さらにベドゥーリでは温水プール、スパとしても利用されています。

またバーズビルでは、この温水を利用した地熱発電が行われています。この発電施設は、州政府の環境資源管理省が所管するクイーンズランド持続可能エネルギー開発基金 (Queensland Sustainable Energy Innovation Fund) の助成を受けて設立され、現在は州政府所有の電力会社Ergon Energyにより運営されています。そして発電された電力は、地域

の各家庭へ供給されています。

## 多彩な動植物

カンガルー、エミューはもちろんのこと、イグアナやエリマキトカゲなどの爬虫類を含め多くの野生動物がダイヤモンドナ市に生息しています。マカティール湖周辺はペリカンの繁殖地として有名であり、最盛期には5万羽のペリカンが集まります。この他にもダイヤモンドナ市には180種類を超える野鳥が存在することから、市民はバードウォッチングの理想郷であると自負しています。

乾燥地帯であるため植物は豊富とはいえませんが、鮮やかな赤色で鳥の嘴のような花を咲かせるDesert Peaは、オーストラリアの砂漠地帯特有の種類でとても個性的です。またバーズビル周辺には小高い柳のような樹木の植生地帯が広がっていますが、これはアカシアの一種でWaddi Treeと呼ばれる世界的にも珍しい植物です。これらの動植物も貴重な観光資源であり、ダイヤモンドナ市では宣伝とともに保全にも尽力しています。

## おわりに

私がこの街を訪れた日は、オーストラリア中が注目するメルボルンカップという全豪で最も重要な競馬開催日で、街はお祭ムードです。市民は皆コミュニティセンターに集まり、料理を食べながらビールを飲み、特設テレビでレース中継を楽しんでいます。平日ですが市長や市役所のスタッフもオフィスから駆けつけ、一市民として肩を並べて楽しんでいます。日本ではありえない光景です。もちろん国民性や地域性もあるのですが、このように市民は普段から遊び心と連帯感を強く持ち明るく生活しています。

2010年の年末からクイーンズランド州沿岸部では記録的な大洪水に見舞われました。この洪水にこそ被害は受けなくても、ダイヤモンドナ市でも数年ごとに洪水被害が発生しています。安易なことはいえませんが、私にはこの市民の遊び心と強い連帯感が、街の活気となり、災害にも負けない地域づくりにつながっているように見えました。私は地方都市の振興策を考える上で、とても重要なものを見せられたように思います。